



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

私達が子どもをつくるのではありません。神様がつくるのです。

DNAには全ての生命活動に対する化学的命令が含まれています

デオキシリボ核酸、血液の雫の中に発見される核酸にしては大きな名前です。DNAという頭文字でよく知られているこの核酸は一九八五年にイギリスの生物学者のアレック・ジェフリーズが僅かな

人々にとってはありがたいことですが、この発見は疑う余地もなく、全ての人に子どもとは妊娠の初期の段階においても単なる組織の小さな塊ではないということを証明したことになります。

受精した卵子はわずか一個の細胞からなっています。卵子には23本の染色体を持つDNAが含まれています。卵子を受精させている精子にも23本の染色体があります。この46本の染色体は人間の形成に必要な全ての情報を持っているのです。その中に含まれているのは単なる設計図ではありません。らせん状にぎっしりと積み重ねられたバコードの中に人体を形成する微細な物質が貯

えられているのです。これらの46本の染色体には、始まる前にすでに書かれている46章から成る人間の命の伝記が記録されています。受精の時に合体する前から、そのストーリーの半分は卵子の中に、半分は精子の中にあるのです。それから、本の第一部と第二部が合わさってそのストーリーの完全版ができあがるのです。

この「本」には百科事典5セット分以上、5冊でなく5セットの個人に関する情報が含まれています。たとえば、性別、性格、遺伝的な病気、皮膚や頭髪や目の色等たくさん情報が含まれています。

したがって、私は身体的な特徴やまたある程度

までは性格までもが、子どもが胎内および、幼児期から成年期になる過程において形成されるばかりでなく、前もって決定されている人間を形成する微細な物質を組み合わせる卵

子と精子の合体の時に存在していることがわかります。

その過程はプレハブの家の建築にたとえることができます。ただその家が完成された半分からなっていることが普通の家と異なっています。その家は半分以上別の車で運ばれてきて、それから合わせられるのです。その家は大工さんが二つを合体させる以前にすでに部分的にできあがっているの

です。壁や天井や床は作ら

れませんが、DNAの半分を母親から、半分を父親から受け継ぎます。中絶反対派の

活動に対する化学的情報が含まれています。私達は

このDNAの半分を母親から、半分を父親から受け継ぎます。中絶反対派の

活動に対する化学的情報が含まれています。私達は

このDNAの半分を母親から、半分を父親から受け継ぎます。中絶反対派の

活動に対する化学的情報が含まれています。私達は

れ、色やクロスが選ばれ、電気器具や家具が所定の場所に置かれているのです。

受精が行なわれるとき、父親が一方の車で母親がもう一方の車なのです。精子が家の半分で、卵子がもう半分なのです。それぞれが神様が創った別々の建築物なのです。それぞれが、目の色や皮膚の色や背の高さや性格や遺伝的な病気に対する情報を選ぶのです。合体すると青い目の、あなたよりずっと背の高い六フィートも身長のある息子になったり、小柄でこぎれいなブロンドの娘になったりします。いまある彼らの存在と特徴はまだ胎内にいるときに計画されていたのです。彼らはただ成長し、成熟しただけなのです。ごく最近になって科学者はDNAの驚くべき特徴を発見したのですが、神様は最初からそのことを知っておられ

ました。実際DNAを発明されたのは神様なのです。子どもをつくるのは私達ではありません。神様がつくるのです。神様が大人さんなのです。男性と女性は別々の構造物を運んできて合わせる車にすぎないのです。母親の子宮は子どもがそこで成長し成熟する安全な場所である、あるいはそうであるべきなのです。

ナンシー・メリカル

男性の

苦悩のパターン

「私が話した男性のほとんどが、何年経つても中絶の事を考えている。悲しかったり、関心を持ったり、色々である。しかし多くの場合、それについて誰とも話してないものである。それはタブーなのだ。彼等が話すことは認められていないのである・・・。男性が涙を流したければ、一人きりでした方がいい。もし彼が中絶によって子どもを奪われたと感じたなら、それは自分の中で乗り越えなければならぬ。彼は司牧者と苦しみをかち合う事も無い、親しい男友達と分かち合う事も無い。ただ彼一人の問題なの

である。そしてそれは長い間続くのである。」と社会学者のアーサー・ジヨスタックは言う。

男性が子どもを失った後に長期間の悲しみを経験する可能性がある、という調査の結果が出ている。リーハイ大学の研究者達は、流産や異常妊娠、死産、胎内死における、女性とそのパートナーの悲しみの反応について調査した。17%が当時の二ヶ月後よりも二年後の方が悲しみ

ローのニューヨーク州立大学の仲間は、自らの意思で選んだ中絶を前にしたカップルを調べた。妊娠を自分達の品性の悪さのせいにするのは、女性より男性の方が多かった。自分の品性を責めるのは、激しい落ち込みの危険につながる事から、男性は女性に比べ、中絶の後にひどく落ち込む危険性が高い、と言える。

の度合が強く、その二年後の方が悲しいという内の2%が男性であった。内気な人や、密かにがっかりしている人に深刻な悲しみの危険がある、と彼等は結論付けている。

研究者ブレンダ・メイジャーとバッファ

大学の研究者リタ・ブラックは、出産前の検査での異常による中絶や流産によって子どもを失った男性と女性(91%は既婚者)の、この問題への対処の仕方を調べた。一ヶ月後と六ヶ月後の両方の時期において、子どもを失った事についてははるかに男性の方

が口に出す事が出来な
かった。

男性が悲しむ役を引
き受けるのは、ある意味
で、女性が中絶への何の
後悔も罪の意識も表わ
さない事から、誰かがそ
うしなければ、と男性が
思うからである。そんな
例として、ある男性が四
人の子持ちで離婚した
がっている人妻とつき
あい始めた。数ヶ月後そ
の女性は彼の子を妊娠
した。彼女の旦那は精管
切除していたので、彼女
は中絶するしか道がな
かった。しかし男性は中
絶に絶対反対で、中絶を
あきらめるように大金
を払う、とまで言った
が、彼女は拒否した。

でいっばいだった。彼は
自分が二人分の痛みと
屈辱を抱えている様な
気がしたのである。「そ
れは地獄の様だった。死
んだ方がましだと思っ
た。」彼は中絶に取りつ
かれ、夜も昼もその事を
考え、時には何時間も泣
いたりした。彼はひどく
不安になり、パニックの
発作が起きたりしたの
である。彼等は彼女が離
婚した後もつきあい続
けた。彼の子どもが二度
目に出来た時も、彼女は
彼の強い反対にもかか
わらず中絶してしまい、
彼等の関係は更に危な
くなっていった。

ass:inter.research in

values,11-12/94

精子だけが知っている

なぜ、精子は鼻に似てい
るのでしょうか。それは、
ある意味において、両方と
も、「においがわかる」か
らだと、ジョン・ホプキン
ス大学の研究者である
ローレン・ワレンスキー博
士は言っています。彼は、

出現を待つて精子は何日
間も腔壁で潜み、「排卵と
同時に精子はすぐに駆け
出し、数分以内に受精場所
に達する」と博士は言いま
す。どこへ行くべきかをど
のようにして精子はわか
るのでしょうか。

精子には、鼻にあるのと同
種の、におい結合蛋白が含
まれていることを発見し
ました。その蛋白は、卵子
からのメッセー지를嗅ぎ
分け、そのことで、精子
が卵子を発見できるので
はないかと言っています。
その発見によって、恐ら
く、精子と卵子の驚異の相
互作用について多くのこ
との説明がつくでしょう。
小さい食物を捜し求めて、
濁った池の中を泳ぎ回る
おたまじゃくしのように、
微小な精子は途方も無い
距離をやみくもに泳ぐに
ちがいありません。卵子の

科学者は、精子は卵子が
出す何かの化学的シグナ
ルに向かつて、いわゆる走
化性と呼ばれる反応に
よって進むのだという理
論を立てています。科学者
は精子が用いている追跡
機構は、おのの通り道と
同様のものであると考え
始めました。鼻の中では、
空气中を漂ってきたにお
いの粒子が現われ、リセプ
ター粒子と結合し連鎖反
応を引き起こし、結果とし
て脳にピザが近くにある
と伝えるのです。

心をしました。「分子医学」
という医学雑誌の中で報
告された実験において、彼
はにおいリセプター蛋白
に対する抗体を用いまし
た。彼はその抗体がラット
の精子の尾の上部の蛋白
と結合することを発見し
ました。その部分にはミト
コンドリアが集まってお
り、その部分は泳ぐ時の細
胞の活動にエネルギーを
与える発電所のようなと
ころです。従って、リセプ
ターは鼻の中での場合と
きわめて同じような活動
をすることができたので
す。リセプターは卵子か
ら、精子の卵子へと向かわ
せる働きを担当する部分
へのメッセー지를伝える
事ができていたのです、と
ワレンスキー博士は述べ
ています。

ジョン・ホプキンス大学
研究紀要1995年4月

養子縁組 建設的な選択肢

「養子縁組は子どもにとって何が一番良いかを考えた愛するがゆえの選択である」

毎年百万人以上もの十代の若者が妊娠し、その子どもは未来に関わる選択をしなければならぬのです。多くは中絶を選び、さらに多くがその子どもを育てることを選びますが、養子縁組を選ぶ人は5%に達していません。

30〜40年前は、十代で妊娠した人の80%が我が子を養子に出していました。というのはそうすること、が当時一般的だったからです。最近まで未婚の母と認められておらず、そのことで若い女性は社会からの経済的支援もなく、恥辱を受けざるを得なかったに頼らざるを得なかったのです。しばしば彼女たちは妊娠していると誰に

も知られないように、住んでいる町からよその町へやられたものでした。そして、産んだ子どもを手放して、全てを忘れるよう説得されることたびたびでした。自分の産んだ子どもを見ることさえありませんでした。養子縁組は普通、子どもを産んだ母親や、成長した養子の感情や心の安らぎへの配慮がなされることもなく、秘密のベールに包み隠されたものでした。子どもを産んだ母親が、自分が産んだ子や養父母についての情報を受け取ることはめったにありませんでした。また医学的、社会的に役に立つ情報が、養子となっていく子に伝えられることもめったにありませんでした。養子

縁組を決意したことを後悔する母が非常に多かったことは当然のことです。今、自分を生んでくれたもの家族を探し求めていく人が非常に多いことも不思議なことではありません。今日、未婚の母に着せられる汚名はほとんどなくなり片親として生きていくことに対して、家族や友人や周囲の人からのプレッシャーがあるのです。未婚の母への経済的、精神的支援も増加しました。養子縁組のことを考えてみようと思っている若い未婚の母は、家族や友人からの反対に立ち向かうことはできないと感じることが多いのです。彼女たちは「冷

たい」というレッテルを貼られたくないのです。彼女たちは精神的に未婚の母になるという重荷に絶えられなくて、中絶をするこ

とだけが残された道だとしばしば思っています。多くの人々が今も、昔から聞かされてきた話を基にして養子縁組に対して間違った考えを持っています。多くの人々がまだ自分の子を愛していない母だけが赤ちゃんを他人に渡してしまふという神話をまだ信じています。

未婚の母になることは妊娠してしまった自身の女性にとつて中絶をしない一つの取るべき道なのです。養子縁組は中絶をしないもう一つの取るべき道なのです。しかし、自ら養子縁組に関わったことのない人々に話をすると、私が気づくのは、養子縁組がどのように行なわれるかに関してそのような人々の知識が極めて限ら

れたものであるということなのです。養子縁組は変わったのです。このごろは子どもを産んだ母親の要求にはかなりの配慮がなされています。養子縁組は昔より思いやりのあるものとなり、その結果、もらわれていく子どもも、養子に出す親も、また養子を受け入れる両親も精神的に満足し、以前よりうまくいっています。今日、たいいていの産みの親にとつて、養子縁組は、全ての選択肢を見て、その子にとつて何がベストかを考えた末に決定する選択となつていきます。それは、愛するがゆえの選択ですが、当然大きな苦しみを伴います。子どもを手放すということは、肉体的、精神的損失であり、悲嘆に暮れる時期は避けられないものです。この苦痛は子どもを失ったことに対する当然の反応だとは認めら



れず、養子縁組が間違っただけだとして誤解されていることがあまりにも多いのです。我が子を手放したあんな母親が言葉巧みに語っているように、「子どものために自分が苦しむ選択をしたのです。」

私は中絶にまつわる神話の真相を暴露するため、中絶反対運動家が行なってきたことを誇りに思います。彼らは、胎児は私達が守る価値のある人間であると社会に教えているのです。彼らは「中絶後遺症候群」として知られ

ている精神的病気のことを社会に知らせ、中絶というその場しのぎの解決方法が決して解決にならないことを社会に証明しようとしているのです。

彼らは法律を変え、彼らは、社会が若い独身の妊娠した女性を愛し、彼女が許しを得ることができ、ことを、そしてそれがおなこの子の父親と結婚するという条件つきでないことを示さねばならないと社会に教えています。私達は未婚の母を受け入れ、実際の、精神的支援をしています。

養子縁組にまつわる神話の真相を暴露し、養子縁組がすべての妊娠してしまつた十代の独身の若者に、建設的で慈悲深い選択肢として提供されるべき実行可能な選択肢であることを教えることに同じ時間をかけ、同じ注意を払うよう頑張ってください。

建設的な選択肢として 養子縁組を 提示する方法

養子縁組が完全に認められ、私達の社会で魅力的な選択肢となるためには、

養子縁組についての教育が今日、大いに必要とされています。中絶反対運動家としてあなたは、養子縁組を建設的な選択肢として提示する重要な役割を果たすことができます。私はあなたに次のよう行動することをお薦めしたいのです。

1 知識を多く持ちなさい。養子縁組は変わりつつあります。少し研究をなさい。養子縁組に関する最近の本を何冊か読みなさい。あなたが住んでいる地域社会で養子縁組の斡旋をしている機関に、どのような仕組みになっている

のか情報を得るために手紙を書きなさい。養父母となった両親、養子となった子どもそしてその子を養子にだした両親と話をしなさい。法律を理解しなさい。

い役割に適応しつつある新たに養父母となった人々の声に敏感になりなさい。自分に命を与えてくれた父母を探している養子を支援しなさい。

2 明確な言葉を使いなさい。「本当の母」とか「本当の両親」という言葉は混乱を引き起こしかねません。その子を産んだ女性は産みの母親なのです。両親は、「産みの親」であれ、「育ての親」であれ、子どもを育てる人は父と母なのです。「赤ちゃんを養つ」と「赤ちゃんを養つ」の問題ではないのです。「産みの親」は我が子の将来について考えているのです。

4 あなたの地元の養子縁組の斡旋をしている機関を支援しなさい。たいていは教会の信者や学校の若者に養子縁組を促進するため、講演の依頼を歓迎しています。養子縁組のパシフレットを地元の医院や薬局や図書館に置く手助けをしなさい。

3 養子縁組を決意した、あるいは悲嘆の時期にある両親を支援しなさい。養子をもらおうとしている子どもができない夫婦を支援しなさい。そして新しい

養子縁組を決意した、あるいは悲嘆の時期にある両親を支援しなさい。養子をもらおうとしている子どもができない夫婦を支援しなさい。そして新しい

ジョン・

コスモチャック

無邪気な正義感！

それはどこへ消えたのでしょうか？

今朝、私の心の中には、たった一つの事しかありません。一九九一年七月五日という日が、ある子ども

の命の最後の日だ、という事です。心の中で私は、この数週間にあった出来事を思い返し、何故何も、誰も、これを止められないのかと、不思議に思いました。

朝八時三十分に赤ちゃんは死にます。私の息子の

子どもで、私の初めての孫。息子の恋人は、一生この事を後悔し続ける事になる、と私の家族は話してくれるけれど、それでも思いとどまろうとはしませんでした。

目を閉じると、小さな手と足と、すでに脈打つ小さな心臓を持つ小さな赤ちゃんが、母親の胎内で、暖かく居心地良くしてい

せんでしたか？

この無邪気な正義感、この心の底からの正と悪との感覚は、どこへ行つてしま

ったのでしょうか。どの年齢で道徳は、意味を無くしてしまつたのでしょうか。いつこのような法則は我々の勝手な生き方に合うように変わつてしまつたのでしょうか。

彼女は「これは私の赤ちゃんで、私の身体であるから、私にこの決断を下す合法的な権利があるのだ」と言いました。確かに彼女の言っている事は事実です。けれどもこの赤ちゃんは、すでに私達家族の一員でもあるのです。

息子の恋人の妹と、私の娘は、同い年で、私達にこれを止めさせてと頼みます。息子の恋人は、「彼女はまだ十四歳だから何もわかつていない」と言っています。しかし時には、子どもの賢明さは年齢を超越します。彼女達にとつて中絶、痛みと死を伴う行為すべては間違っているのです。私達はそう教えま

の子は命だけでなく、我々の人生の一部となる事を奪われるのです。

この事にいつまでもこだわるのはよそつ、と思いましたが、赤ちゃんが男の子か女の子かと、どうしても考えてしまいます。目は何色かしら？私の息子に似ているかしら？

私は私の子ども達が赤ちゃんだった頃に、彼等が周りの世界を発見していくのをいつしよに見守つた素晴らしい行程を思い出します。彼等の驚きと無邪気さを見て、私は新しい世界を、彼等の目を通して再発見したのです。

彼女は赤ちゃんの責任を負いたくない、と言います。私は、この子を、子どもに恵まれない夫婦への授けものとしてあげられる、と考えてくれるように頼みました。でも彼女は、体型を崩したくないと言

うのです。それだけの理由のために、子どもは死なな

ければならないのです。私の子ども達は、どんなに問題が多かつたにせよ、私

大切に思う素晴らしい贈り物です。私の人生の中の最大の仕事は、家庭を作る事です。家庭菜園を作ったり、花や木を育てました。小犬を育て、又それが小犬を産みました。私達は何千匹ものグッピーや、他の魚

や、羽を怪我した鳥や、プーカという名前の白い兔を飼っていました。白雪姫という名前の黒いコッブカースパニエルも飼っていました。これらすべてが、今への賞賛の一部なのです。

私達の家族が完璧だったとは言いません。でも生活の中での苦しみの時にも、絶えず愛と笑いと命がありました。

私は常に中絶、特に産児制限の意味での中絶に反対でしたが、今私の人生に個人的に関わつてくると、思っていたよりずっと恐

るしいものです。

明日の朝、私の人生に、
今までに経験のない大きな悲しみがもたらされま
す。どうやって心の準備が
出来るでしょう。私の母
も、これを理解することは
出来ないでしょう。一月に
私は初孫を抱くことが
出来たはずなのに、かわり
にこの赤ちゃんが明朝バ
ラバラにされ、私の一部も
引き裂かれるのです。明日
の苦しみと悲しみは、永久
に私達家族から離れない
でしょう。

私の息子の子ども、私の

初孫には、お葬式もなく、
実際存在していたという
証拠のお棺さえないので
す。

Celebrate Life 1-2/95

選択の余地は

なかつた

心臓はどきどきし、深呼吸
吸をしても少しも役に立
ちませんでした。レジのカ
ウンターのところで震え
る膝で立ちながら、落ち着
いて義理の娘のことをで
きるだけ考えないように
努めました。でも、ついに
もうこれ以上がまんがで
きなくなりました。「私病
院にいくわ。おばあちゃん
になるのよ。」と支配人に
言いました。

一時間後、私は産科の待
合室に駆け込みました。そ
こには私の夫と母と義理
の父がすでにいました。そ
れからまだ三時間も行っ
たり来たりしなが待ち待
て、やっと私達の息子が待
合室に入ってきて息を切
らせてこう告げました。
「女の子だよ。もう少しし
たら赤ちゃんと対面でき

るよ。」

この幼い赤ちゃんをほ
んの一目見て、私はおばあ
ちゃんになるという事が
どういふことが分かり
ました。私は夫をつっつい
て、「ねえあの子を見て。
ちよつと眉毛のところ
しわを寄せたでしょ。あ
の子は思慮深い子になるわ
よ。」と言いました。「ほら、
見てごらん。あの子とても
力が強いよ。自分で自分の
頭を持ち上げたんだよ。」
と夫も言いました。私達は
声高に自慢をしないよう
に努めました。というの
は、通りすぎる人が、私達

が世界中で一番可愛くて、
強くて、頭がいい孫を授
かったということに気分
を害するといけないと思
ったからです。その時、
彼女はかわいく小さいバ
ラのつぼみのような口を
開けて、育児室のガラスの
こちら側にいても聞こえ
るような耳をつんざくよ
うな泣き声をあげました。

それで私達は、彼女は声も
一番大きいだろうという
ことが分かりました。「こ
の子は肺が丈夫だねえ。」
と義理の父が言いました。

世界中で一番可愛くて、
強くて、頭がいい男の赤
ちゃんが、恐ろしい顔つき
の看護婦によって私の膝
のうえにボンと置かれた
二十五年前のあの日に私
は思いをばせました。「こ
の子をどうすればいい
の。」と私は震える戸惑つ
た声で尋ねました。「お乳
をやつて、授乳の後げつぷ
をさせて、おむつを替え
て、愛してあげるのよ。」と

その看護婦は部屋から出
ていきながら、ぶつきらば
うに言ったのでした。
私はまず赤ちゃんにし
てあげなければならぬ
それらのことにまごつき
ながら、いったいこの子は
大きくなれるのかしらと
思いました。
でも彼は大きくなりま
した。私は、今、屈んで幼

子の額にキスをしている
彼を見ながら昔を思い出
しました。彼が私の膝の上
に置かれてから長い年月
が経っていました。

数分経って、彼は部屋か
ら出てきて、「赤ちゃんは
まもなく母親のいる部屋
に連れていかれるから、そ
こでもつとよく赤ちゃん
を見たり、だっこすること
さえできるよ。」と言いま
した。私達はできるかぎり
辛抱強く待ちました。私は
アイスクリームを待つて
いる子どものように行つ
たり来たり小躍りしたり
しました。

くるくる回っている最
中に、私はホールを通りす
ぎていた女性に正面から
ぶつかってしまいました。
「あらごめんなさい。いま
孫をだっこするところな
のよ。」と私は言いました。
「いいんですよ。なんとも
ありませんかち。」と彼女
は丁寧に言いました。
彼女が立ち去る前に、私

は彼女のTシャツの胸の「プロ・チョイス（女性に選択する権利を!）」という文字に気がつきました。

そうするうちに、私の心は、再び、ふらふらと昔に戻っていききました。私は手をかたく握りしめて診察室に座っていました。そこへ医者が入ってきて、私に検査結果を告げました。

「あなたは妊娠していません。」と医者は冷静に言いました。私は冷静でいようと努めました。若すぎました。

私は心の準備ができていませんでした。私のボーイフレンドも若すぎ、心の準備ができていませんでした。

でもそれは一九六七年のことで、私達はしなければならぬ事を果たしたのです。つまり、私達は結婚をしなければなりません。私は「プロ・チョイス」の女性のことを思い、もし私達にその時選

択の道があったとしたらどのような選択をしたであろうかと思いました。

私の思いは中断させられませんでした。一九六七年には若すぎて心の準備ができなかったその同じ男性が私の顔の前で手を振って私を現実に戻してくれたからでした。「さあ行こう。孫をだっこしたくないのかい。」と彼は言いました。

私が部屋に入っていくと、そこには義理の娘が生まれたばかりの赤ちゃんを抱いていました。そっと彼女は赤ちゃんを私に手渡しました。私はその子をしっかりと抱き締め、夫はその小さな手を取りました。彼女は指を強く握り締め、目を開けました。

「ほら、私を見て笑ったようだよ。」と彼は言いました。「そうね。確かにそうしたわね。」と私は同意しました。

「プロ・チョイス」の文

字のTシャツを着た女性が部屋の入りの口のところを通りすぎました。彼女がちらつと覗き込んだ時、一瞬目が合いました。孫のかわい顔振り返つてみた時、私はそつと祈りの言葉をつぶやきました。「神様、感謝致します。一九六七年のあの時、私に選択の道が無かったことを。」

イレイン・ゲイザー

